

就任のご挨拶

腎泌尿器センター長 兼
腎臓内科 主任部長

塚本 達雄

この度、腎泌尿器科センター長・腎臓内科主任部長を拝命いたしました。北野病院 腎臓内科は昭和 56 年に 20 床の透析室開設から数えて 35 年の歴史があります。南方先生、吉田先生、武曾先生といったご高名な先生方が務められた部長職を仰せつかり、身の引き締まる思いをしております。病棟は血液内科との混合病棟で 25 床、腎炎・ネフローゼの年間約 100 件の腎生検、ステロイド治療、慢性腎臓病に対する検査・教育入院も行っております。慢性腎臓病の地域連携診療に関しては 500 例を越える症例で継続的に行われており、今後も地域の先生方との情報交換を広げてゆきたく存じます。年間約 60 名の透析導入があり、5～10%は腹膜透析です。血液浄化センター（透析室）は 30 床となり看護師 13 名および臨床工学技士 6 名とともに、慢性血液透析からアフェレシスなどの特殊血液浄化およびシャントトラブルを含めた透析合併症治療も行ってしております。



さて、腎泌尿器センターは、腎臓および尿路に関連する疾患を中心に予防・診断・検査および治療に関して内科系（腎臓内科）および外科系（泌尿器科）が協力して行う事を目的に平成 25 年に設立されました。腎泌尿器カンファレンスでは、腎臓内科から泌尿器科へは主として尿所見異常で紹介された患者さんの尿路結石あるいは尿路系悪性腫瘍の対診、腹膜透析用のカテーテル留置術依頼がなされ、泌尿器科から腎臓内科へは泌尿器科疾患に伴う腎機能障害や透析症例の術前・術後管理などが討議されます。尿路感染症に関しては両科で管理しております。また、腎移植に関しては両科で相互診を行っており、腎移植カンファレンスでは、過去の腎移植症例の現状報告、今後の腎移植症例に関する情報共有など、お互いの視点から問題点を解決する事の特徴としております。これからも風通しの良い連携診療をさらに継続してゆくことを目標としておりますので、何卒よろしくごお願い申し上げます。



血液浄化センター

就任のご挨拶

腎泌尿器副センター長 兼
泌尿器科 主任部長

岡田 卓也

この度、平成 28 年 4 月 1 日付で、腎泌尿器センター泌尿器科主任部長を拝命いたしました。平成 3 年に京都大学泌尿器科学教室に入局し、以後大学や神戸市立医療センター中央市民病院等で臨床経験を積ませて頂いております。高齢化に伴い、泌尿器科では前立腺疾患や腫瘍性疾患が増加する一方、併存疾患を有し、予備能が乏しい患者様が多く受診されるようになりました。当科では、腹腔鏡手術や da Vinci による前立腺ロボット手術、結石や前立腺肥大症に対するレーザー手術など、低侵襲な手術手技を早期から導入し、また他の診療科との連携を十分にいき、個々の患者様の状態に応じた、安全で適切な治療方針を選択するよう心がけています。より身近な排尿障害に関する治療にも積極的に取り組み、腎臓内科との強い連携を生かして、生体腎移植治療もさらに進めてゆきたいと考えております。今後とも先生方のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



臨床検査部生化学・免疫血清・凝固系

検査機器の更新について

臨床検査部 技師長

田畑 弘道

平成 28 年 7 月 18 日・19 日の連休を利用し、臨床検査部の生化学検査・免疫血清検査・凝固系検査の検査機器を更新しました。当検査部では、以前より検査結果の診断に必要な各検査機器を接続する搬送システムを導入し、検体の投入から測定・回収までを全て自動化してきました。今回も搬送システムを含む更新となりましたが、特に検体処理能力の大幅な向上と、同一機器の複数台導入による機器トラブル時のバックアップ体制を確立し、検査結果報告の遅延を極力低減させる構成とすることができました。これにより、スタッフは、検査結果の確認・再検の判断・結果登録作業等の検査値を見るという業務に集中でき、より迅速で正確な検査結果の報告が可能となりました。また、搬送システムの更新により、スタッフへの血液汚染事故のリスクも低減しました。これからも検査法の標準化、さらなる結果報告の迅速化に努め、皆様の満足度の高い検査を目指してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



検体の投入・回収ライン



生化学ライン

免疫系の修復、活性化に役立つ 免疫組織・臓器をつくる

医学研究所 研究顧問

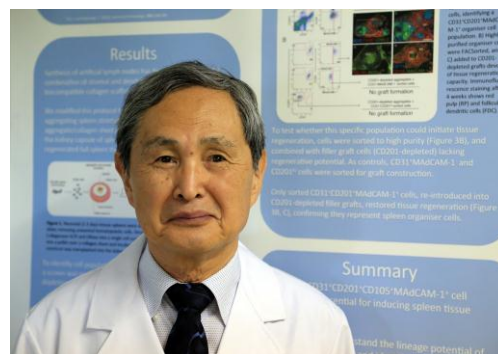
渡邊 武

医学研究所 研究員

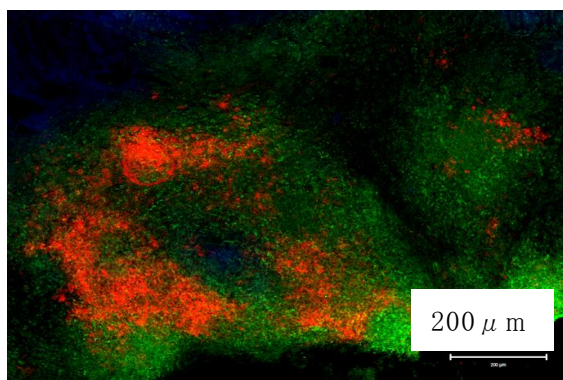
小林 由佳

私達の健康は免疫力で支えられているところが大きい。免疫力を生み出す臓器には一次免疫臓器と二次免疫臓器がある。一次免疫臓器は免疫力を担うリンパ球を生み出す場所であり、二次免疫臓器はリンパ球が免疫能力を獲得し、その機能を発揮する場である。二次免疫臓器には脾臓とリンパ節がある。リンパ節は身体の要所要所に多数分布している。リンパ節や脾臓はリンパ球（免疫細胞）が抗原提示細胞から抗原情報を受け取り、免疫反応を誘導する場である。身体に侵入あるいは発生した病原微生物やがん細胞を速やかに認知し、確かな免疫反応を惹起してそれらを排除する。リンパ節などの二次免疫組織は感染症あるいは癌などから生体を防御する重要な組織である。免疫系は一度その病原微生物や癌の脅威に遭遇するとその抗原情報は長期にわたって記憶し、再び同じ脅威に遭遇すると速やかにかつ強力に二次免疫反応を惹起してそれを排除する。この免疫記憶の形成の場も二次免疫組織である。しかし、ウイルスあるいは細菌などの重症感染症、がんの進行などでは免疫組織はしばしば壊滅的な破壊を受ける。がんなどに対する化学療法、放射線療法によっても免疫系は激しく損傷される。加齢ともなう不可逆的な免疫力低下も大きな問題である。最新の「がん免疫療法」は免疫系が正常に機能して初めて効果を発揮する。ワクチンが有効に作用するためにも免疫系がその能力を十分に発揮出来ることが必須である。免疫状態が低下、疲弊しているとワクチンも癌免疫療法も効果を発揮できない。

このような免疫系の機能低下、障害、破損、消失を修復するために、自然のリンパ節あるいは脾臓と類似の構造を持ち、かつ強力な免疫機能を発揮できる移植可能な二次リンパ組織を、私達は世界で初めて実験動物で人工的に構築することに成功した。現在、ヒトにおいて二次免疫組織（臓器）を人工的に再生、構築することを試みており、人工的に再生したヒト免疫臓器を用いて、機能が低下、疲弊したヒト免疫系を修復、強化、再生させて、癌、重症感染症、老化による免疫不全、あるいは自己免疫病などの治療に役立てるべく研究を行なっている。



医学研究所 研究顧問 渡邊 武

人工的に構築された免疫組織の一部
(赤: B細胞、緑: T細胞)

研究風景

大阪市北部早期膵癌プロジェクト

消化器内科 主任部長

八隅 秀二郎

膵臓癌は男女全体で肺癌、胃癌、大腸癌に次ぐ第4位の死亡原因となっています。さらに、最も予後の悪い癌としても知られており、平成26年で年間33,000人が発病し、31,700の方が亡くなっています。

しかしながら、近年の画像診断機器のおかげで、上皮内癌や1cm以下の小膵癌が発見されるようになってきています。見つかる数自体は多くないですが、これらの5年生存率は80%以上と言われており、治療できる膵癌とされています。

そこで、北野病院は済生会中津病院と協力し、北区及び大淀医師会と膵癌に関する勉強会を平成24年より開始しております。同時に「大阪市北部早期膵癌プロジェクト」として隣接する医療圏の淀川キリスト教病院と東淀川区医師会、大阪市立総合医療センターと都島区医師会でも活動を開始しました。

4病院の膵癌患者数は年間200人前後で推移していますが、プロジェクト開始により20%弱だった切除率が約30%に上昇しました。特筆することは、治療できる可能性のあるStage 0-1の膵癌が見つかり出していることです(図1)。発見されている膵癌の全体数は大きく変わっていませんので、本来ならもっと進行してから発見されていた患者が、比較的早期の段階で見つかるようになったことを意味していると考えています。これらは、紹介してくださる医師会の先生方が日常診療において微細な変化を拾い上げ、専門の病院に紹介してくださる、『連携パスを用いた病診連携』がうまく機能してくれているおかげと考えております。

平成27年から大阪赤十字病院がこの運動に参加してくれました。この運動が大阪市北部から大阪市、そして大阪府へと広がり、大阪の膵癌患者の死亡率が低下し、そして膵癌の5年生存率が上昇するように、医師会の先生方と研鑽を続けて頑張っていきたいと考えております。表1のようなリスク因子がある患者様がおられましたら、お気軽に専門病院へ紹介いただければと思います。

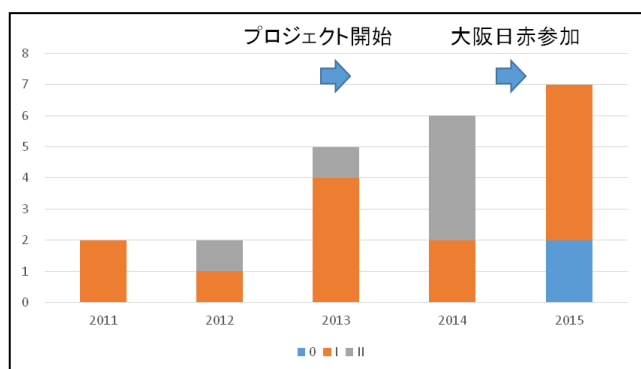


図1: pStage 0-IIの推移

- | |
|----------------|
| ①原因不明の上腹部痛、背部痛 |
| ②膵酵素上昇 |
| ③膵癌マーカーの上昇 |
| ④膵のう胞、主膵管の拡張 |
| ⑤糖尿病の発症、糖尿病の悪化 |
| ⑥膵癌の家族歴 |

表1: リスク因子

第 8 回大阪きた緩和ケア研修会のご報告

平成 28 年 7 月 23 日（土）・24 日（日）当院きたのホールにて、「第 8 回大阪きた緩和ケア研修会」が開催されました。今年は、全 46 名（医師 37 名・看護師 5 名・薬剤師 1 名・医療ソーシャルワーカー 2 名・看護専門学校専任教員 1 名）の多岐に渡る職種の方々にご参加頂きました。北野病院からも、医師をはじめ多くの職種（全 24 名）にご参加頂き、2 日間の研修を修了されました。次年度は、平成 29 年 7 月 22 日（土）・23 日（日）に、共催先の済生会中津病院で開催となります。多くの医師・コメディカルの方々のご参加をお待ちしております。

【地域医療サービスセンター】



第 8 回大阪きた緩和ケア研修会 受講者の感想



ご多用のなか、丁寧にご指導頂き有難うございました。研修を受講させて頂き、他施設の方や他職種の方の意見を聞く機会というのは非常に少ないのでとても貴重な体験になりました。事例検討などのグループワークやロールプレイを用いた学習では各職種がどのような事を考え行動されているのかを考える機会にもなりました。患者、家族にとって適切な医療を提供

するには様々な専門分野の知識や経験を集結させることが重要であり、それぞれの専門性を発揮しながら協働することやチーム医療の重要性を学びました。今回の研修で得た知識と経験と、また研修で感じた刺激を、今後の看護の場に活かしていきたいと思えます。

【10階東病棟:主任看護師 楠本雅美】

7月23、24日に行われた緩和ケア研修会に参加させていただきました。講義、グループワーク、ロールプレイが予定されており、うまくやっけていけるか不安でしたが、グループワークの最初にはアイスブレイキングで他己紹介を行い、緊張も解けて和やかな雰囲気活発な議論が出来たと思えます。多職種、幅広いキャリアの方が参加しておられ、様々な視点からの意見が出て予定されていた内容以上に発展して学ぶことが出来ました。ロールプレイなど貴重な機会もあり、非常に有意義な2日間でした。がん診療に携わるすべての医療従事者に受講をおすすめします。



【呼吸器センター内科:レジデント医師 白石祐介】

病院ボランティアについて

庶務課 主任 泉 かおる

当院のボランティア活動では、「患者様の心、思いを押し量る～思いやる～そこに寄り添う」をモットーとしています。ボランティアさんに活動の原点をお尋ねすると、「ボランティア自身の思いを患者様の心に色付けし、患者様の負担となるような押付けがましい行動を控え、病院ボランティアは居るか居ないか、まさに空気のようにでありたい。患者様との何気ないひと時の交流、これに勝るものはございません。」と仰って下さいました。北野病院のボランティアグループで素敵な活動してみませんか。お待ちしております。



病院からのお知らせ

■一般市民向け講演会

○市民医療講座診療

【開催日】平成 28 年 10 月 22 日（土）

【場 所】北野病院 5 階 きたのホール

【テーマ】講演 1：「甲状腺腫瘍の可能性を指摘されたときに」

糖尿病内分泌センター 主任部長 濱崎 暁洋

講演 2：「甲状腺癌の治療と合併症、成績」

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 部長 前谷 俊樹

医師の人事情報（副部長以上）

入職（平成 28 年 9 月）

氏 名	職 位	専門分野
福田 明輝（ふくだ めいき）	消化器外科 副部長	下部消化管・救急
中川 権史（なかがわ けんじ）	小児科 副部長	アレルギー・免疫・リウマチ膠原病

退職（平成 28 年 9 月）

氏 名	職 位
金澤 旭宣（かなざわ あきよし）	消化器外科 部長
小田 紘嗣（おだ ひろつぐ）	小児科 副部長